

ペルー 記録的な量のブルーベリーを輸出する見込み

[FreshPlaza](#) 2025年7月17日

ペルー・ブルーベリー協会の総括マネージャーであるルイス・ミゲル・ベガス氏によると、同国は2025/26年度シーズンに40万トン以上のブルーベリーを輸出すると予想され、これは昨シーズンよりも25%多い。

同氏は、コンサルタント会社のフルクチュアンテ社が主催するウェビナーで、「このセクターは、2016年以降、年平均30%の成長を遂げてきた。今シーズンは、植物が健全で、収穫物が豊富で品質が高いことから、有望なようである」と述べた。(以下「」は同氏の話)

ペルーのブルーベリー産業は、異常気象の後で大きな回復力を示した。2023年度にはエルニーニョのため輸出量が40%以上減少した。しかし、一部の市場では価格が2倍にまでなり、これは予想外のプラスの効果を示した。

2024年度には、ペルーは前年に失われた出荷量をほぼ回復した。しかし、多くの生産者がエルニーニョの後まで剪定を延期したため、収穫のピークは通常よりも遅くなった。これは、季節性と数量的な集中が引き続き価格と物流を圧迫する構造的な問題であることを示している。

記録を更新する出荷量は課題をもたらす。ベガス氏は、3週連続で週に2万4千トンを超えると、セクターとしてより多くのトラック、冷蔵コンテナ、人員、インフラが必要になるため、物流に大きな負担をかけると述べた。「収穫期間を延長せずに出荷量を増やし続けると、システムが破綻する」と同氏は警告した。

ベガス氏によると、収穫期を分散させることは、競争力を維持する上で重要である。「品種の交代は不可欠である。ベンチュラやビロクシなどの従来品種は、長年にわたって成長の原動力となってきたが、今ではセコヤポップやマジカなど、より強く、より柔軟な品種に道を譲っている。これらは極端な天候に対してより耐性があり、より長い期間にわたって収穫を分散するのに役立つ。」

新しい品種は既にペルーの栽培面積の約60%を占めている。

販売の面では、米国は依然として最も重要な市場であり、輸出の55%以上を占めている。しかし、同協会では中国にも焦点を当てており、アジアへの輸送日数を10日間短縮するチャンカイ新港の使用等の物流の改善により、中国のシェアが6ポイント増加すると予想されている。

ベガス氏は、カヤオ港の混雑やフィラデルフィア港など米国の港でのストライキ等のリスクを軽減するため、発地と着地の両方で代替港へのシフトが見られると付け加えた。

加速した成長の主なリスクの1つは、国際価格への圧力である。ペルー産ブルーベリーは高品質であるものの、1人当たりの消費量を増やし、魅力的な価格を維持するためには、国際的な販促活動にさらに多くの投資が必要であるとベガス氏は言う。

「我々の出荷量は年率30%のペースで成長しているが、米国などの市場での消費の伸び率は10%未満である。我々は緊急に新しい市場での消費を促進し、我が国のブランドを強化する必要がある。」

出典: frutasdechile.cl